



平成20年2月7日

各 位

会社名 株式会社武井工業所  
代表者名 代表取締役社長 中山 芳博  
(JASDAQ・コード5286)  
問合せ先  
役職・氏名 取締役管理本部長 武井 厚  
電話 0299-24-5216

## 平成20年6月期中間期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

平成20年6月期(平成19年7月1日～平成20年6月30日)の業績予想について、平成19年8月23日付当社「平成19年6月期決算短信(非連結)」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

### 1. 平成20年6月期 業績予想の修正等

#### (1) 中間期(平成19年7月1日～平成19年12月31日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	2,353	18	90	113
今回修正(B)	2,252	31	61	74
増減額(B-A)	101	49	29	39
増減率	4.3%	-	32.2%	34.9%

#### (2) 修正理由

売上高は、公共事業の削減や建築基準法改正による建築着工の遅れなど、建設市場の低迷や混乱の影響を受けたことや、特に仕入商品販売において貸倒れによる損失リスクを回避するために抑制的な販売活動を展開したことにより、前回予想に対して101百万円下回り2,252百万円となる見込みです。

営業利益は、前回予想18百万円の損失に対して49百万円上回り、31百万円の利益となり、8期ぶりに中間期営業利益を確保する見込みです。これは、前期末に実施した希望退職者募集などコスト削減策のほか、中期事業計画「Reborn Takei 2010」で策定した収益性重視の製品ラインアップの見直しや、生産性向上などの各施策を確実に実行したことにより、原材料コストの増加を補いつつ損益分岐点が引き下げられたことによるものです。

経常利益は、前回予想90百万円の損失でしたが、損失額は29百万円の縮小になる見込み

です。これは長期借入金の借換えに伴うコストが一時的に発生したため、営業外費用が当初見込みに対して増加したことによるものですが、借換えにより長期安定的な資金を調達するとともに、長期的な金融費用の圧縮を実現しております。

中間純利益は、前回予想 113 百万円の損失でしたが、貸倒れによる損失が予想より減少したため損失額は 39 百万円縮小する見込みです。

(3) 通期(平成19年7月1日~平成20年6月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	5,855	243	111	64
今回修正(B)	5,320	243	111	64
増減額(B-A)	535	0	0	0
増減率	9.1%	0%	0%	0%

(4) 修正理由

平成19年12月末の受注残高は前期より増加しておりますが、例年下半期に需要が集中する一部の製造受託製品において減収が予想されることに加え、貸倒れによる損失リスクを回避するため仕入商品の販売抑制策を引き続き実施することなどにより、売上高は減少する見込みです。

引き続き各施策の確実な実行により損益分岐点を引き下げ、販売価格維持による原材料及び運賃などのコスト上昇の吸収を図ることで営業利益、経常利益、当期純利益は当初計画を達成できるとみております。

(5) ご参考:前期の実績(平成18年7月1日~平成19年6月30日)

(単位:百万円)

前年同期実績	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
中間期	2,558	80	144	146
通期	5,810	257	139	85

\* 上記の予想は、本資料発表日現在において入手可能な情報から得られた判断に基づいております。予想にはさまざまな不確定要素が内在しており、実際の業績は種々の要素によりこれらの業績見通しとは異なる場合があります。

以 上